

第3回 日本漢字能力検定 試験問題

氏名

1 級

解答は、現代仮名遣いによるものとする。

解答は別紙(答案用紙)に書くこと。

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。(30)
1〜20は音読み、21〜30は訓読みである。

(二) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。(40)
19、20は国字で答えること。

(三) 次の1〜5の意味を的確に表す語を、後の□から選び、漢字で記せ。(10)
2×5

- 1 挙止蘊藉にして礼節あり。
- 2 心滌蕩せられて累無し。
- 3 自ら玉趾を草鞋のちりにけがす。
- 4 友人に詩稿の添削を求められた。
- 5 手に三尺の梶杖を持つ。
- 6 將軍をして臣と郤有らしむ。
- 7 後宮の幸姫衆く共に譖毀す。
- 8 其の間に陳椽し欲する所を得たり。
- 9 きわめて桃尻にして沛艾の馬を好む。
- 10 弥年艱窶にして孺弱餓死するに至る。
- 11 曲阜尼丘、培塿に比して別無し。
- 12 其の下拆裂して壕と為る。
- 13 堂上には則ち播灑し室中には手を握る。
- 14 華池に合樂し清川に祓濯す。
- 15 戦蒲雁嗟を知り鰈月魚来を覚ゆ。
- 16 驅儼鼓を撃ちて長笛を吹く。
- 17 賓客食する時は則ち王の胙俎を徹す。
- 18 是の節最も喧妍、佳服又新燦たり。
- 19 大化神明にして鴻恩の溥洽なるを知る。
- 20 室居相枕藉し蛙鼃声啾啾たり。
- 21 実に遑しい限りであった。
- 22 落ち葉を杷でかき寄せる。
- 23 木は山に生じ草は隰に生ず。
- 24 孝を非る者は親を無す。
- 25 夙夜祗みて懼れ敢えて寧処せず。
- 26 能く大患を捍ぎ則ち之を祀る。
- 27 又めて姦に格らざらしむ。
- 28 大概の簡要を撮んでしるす。
- 29 聖人要を執れば四方来りて効す。
- 30 虎豹の血、其喋むべけんや。

- 1 客が店にネジコんで来た。
- 2 日本はカサイ列島の一部を成す。
- 3 イスクめられたように身動きならない。
- 4 サンリンボウを避けて転居した。
- 5 伯父からフギヨウセキを咎められた。
- 6 ケンランたる表現技巧に圧倒された。
- 7 小生無事シヨウコウ致し居り候。
- 8 カクヤクたる名声に包まれる。
- 9 原文を十分にソシヤクして味解する。
- 10 いつもどおり玉串がハウテンされた。
- 11 ヨウキヨウの隠者となり世人を欺いた。
- 12 ツタカズラの生い茂る野中に行く。
- 13 キヨキを擁し快快として楽しまない。
- 14 インヤクの間に其の意志を通じていた。
- 15 宴を催しコウシヨクを壮んにする。
- 16 甚だ怠慢でコウシヨクの謗りを免れぬ。
- 17 ツき物が落ちたように興味を失った。
- 18 ツき立ての餅を頂いた。
- 19 互いにカミシモを脱いで語り合う。
- 20 仕上げにシンシ張りをする。

- 1 岩石の堆積。転じて不平・不満の鬱積。
 - 2 交際の親密をはかること。
 - 3 天子が都の外に逃れること。
 - 4 派手で人目に立つ装いや振る舞い。
 - 5 歌舞または遊興の盛んな所。遊里。
- かすいかい・ぎようこう・けれん
こうじゅん・じっこん・ばさら
もうじん・らいかい
- (四) 次の問1と問2の四字熟語について
答えよ。(30)

問1
次の四字熟語の(1〜10)に入る適切な語を後の□から選び漢字二字で記せ。(20)
2×10

- | | |
|--------|--------|
| (1) 野心 | 居敬(6) |
| (2) 見日 | 一生(7) |
| (3) 吠堯 | 禍福(8) |
| (4) 鼓腹 | 黄髮(9) |
| (5) 蓬矢 | 隔靴(10) |

いふく・がんば・きゅうり
すいちよう・せきく・そうこ
そうよう・はつうん・ふしよ
ろうし

問2
次の1〜5の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。(10)
2×5

- 1 世間知らずで見識が狭い人の喩。
- 2 雄渾で文飾を極めた表現。
- 3 故人を衷心から悼むこと。
- 4 在邇求遠の愚。
- 5 人に悪心を起こさせる。

海底撈月・跌蕩放言・甕裡醢鷄
騎驢覓驢・子墨兔毫・銜哀致誠
誨淫誨盜・談天雕竜

1級

解答欄を間違えないよう設問番号を確認してください。

氏名

(五) 次の熟字訓・当て字の読みを記せ。

- 1 罔象 6 金鐘児
2 為体 7 天牛
3 兄鵠 8 酔魚草
4 和林 9 望潮魚
5 紫荆 10 土瀝青

(10)
1×10

(七) 次の1～5の対義語、6～10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。

□の中の語は一度だけ使うこと。

対義語

類義語

- 1 大牢 6 須臾
2 遺闕 7 顕揚
3 祖考 8 叱正
4 中夏 9 挂冠
5 合抱 10 還曆

(20)
2×10

(八) 次の故事・成語・諺のカタカナの部分

(20)
2×10

を漢字で記せ。

- 1 ネンサイの見。
2 百川海にチヨウす。
3 ハジカミの食い合わせ。
4 駑馬もジュウガ。
5 卵を見てジャを求む。
6 ニクタンして荊を負う。
7 カシヨの国に遊ぶ。
8 リヨウチュウウ 葵葉に徙るを知らず。
9 コンニヤクで石垣を築く。
10 タイカンの雲霓を望むが如し。

(六) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義にふさわしい訓読みを(送りがなに注意して)ひらがなで記せ。

〈例〉健勝……勝れる ↓

けんしょう
すぐ

- ア 1 擣礎……2 擣つ
イ 3 暁譬……4 譬す
ウ 5 陟陞……6 陟る
エ 7 豊鼓……8 豊る
オ 9 躲閃……10 躲す

(九) 文章中の傍線(1～10)のカタカナを漢字に直し、波線(ア～コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。

(30)
2×10
1×10

〔A〕御庭に引き据えた¹ピロウゲ²の車が、牛はつけず黒い³ナガエ⁴を斜めに榻⁵へかけながら、金物の黄金を星のように、ちらちら光らせているのを眺めますと、春とは云うものの何となく肌寒い気が致します。尤もその車の内は、浮線綾の縁をとった青簾が、重く封じこめて居りますから、⁶軒⁷には何がはいつているか判りません。そうしてそのまわりには⁸ジチヨウ⁹たちが、手ん手に燃えさかる松明を執って、煙が御縁の方へ¹⁰ナビ¹¹くのを気にしながら、仔細らしく控えて居ります。当の良秀は稍離れて、丁度御縁の真向かいに、¹²跪¹³いて居りましたが、これは何時もの香染らしい狩衣に萎えた採烏帽子を頂いて、星空の重みに圧されたかと思う位、何時もよりは猶小さく、見すばらしげに見えました。

(芥川龍之介「地獄変」より)

〔B〕一島に上陸す。¹タイサツ²有り、サンミツチエルと云う。此の寺には墓所あり。臥棺を地中に瘞³め、其の蓋上の石板は地上に現し、之に死者の姓名及び死せし年月を記す者多し。本邦の如く墳上⁴堅⁵に石碣⁶を建てし者有り。又新碣に、碣の上面を穿ち之に死者の写真を嵌⁷し、上に硝子板を掩い、永く毀損せざる様になせし者有り。蔓草環・雑花環を墳前に供し、又本邦の櫓⁸に似て異なる木葉を供せしも有り。此の寺の僧侶は皆、本邦の五分月代の如き⁹トウロ¹⁰なり。夫よりパレーロヤルに赴く。夜に入り復街上を散歩す。此の地は貧民多くして、箒を鼓し笛を吹き往来錢を乞う。頗る煩わし。此の夜、児謙航海¹¹ツツガ無くトリエストに着せしとの報有り。乃翁¹²の喜び知る可きなり。

(成島柳北「航西日乗」より)

〔C〕我が家の一羽の庭鳥いとたくましが、偶劇しき熱を病みて、秋の一日の華やかなる庭面に、¹黯澹²たる影を投げぬ。彼は、刻々潮し来たる³シヨウネツ⁴の勢に抗し得で、尾羽打ち枯らして、悄然庭の一隅に立てり。昨日までも光榮の華晃⁵打ち翳して、曙の歌勇ましう、洋々乎として、王者の徳、文明の盛を声⁶らしつる雄姿、今何処にか認むべき。昂かりし頭は俛⁷れ、麗しかりし冠は折れて、燃えのぼる満身の炎に、土の如き黝色⁸傷ましく、嵐を嘲りし両翻⁹は萎みて影の如く、敵を挫¹⁰きし爪嘴¹¹は拳曲して力なし。生氣光沢、人に迫るの力ありし渾身の羽毛は、空しく枯れ藁を束ねて、双の清眸は一たび万有より閉じてまた還らず。昂然闊歩の¹²チュウウセキ¹³の姿永えに庭上に消えて身辺唯見る、死影の蹣跚¹⁴たりソウロウ¹⁵たるを。

(網島梁川「苦痛と解脱」より)